

【地球を担当する神々】

- 地球を担当する神々の世界にも幽界のように階層があり、上から、天津神界、国津神界、現津神界と分かれていて、下層には地獄があります。

5

- 24階層目の四十八の神までは、『神』が直接お創りになりました。それより下の階層は、親神が子神を産むことにより、神々が誕生しました。

※ 詳しくは、『61P』で解説

- 10 神々には本来のお名前がありますが、人間界で崇めている神の本来のお名前は解らないので、その神の状態や功績を称えてお付けしたお名前でお呼びしています。そのため、人間界でお呼びしている神のお名前の中には、そのお名前と一致する特定の神が存在しない場合があります。

15 例1) 五柱の神

時間空間の神、天地を分けた神、男女一体神、火の神、水の神、と言われていますが、これは天動説の時代に生きていた人が想像して作った名前なのです。

- 20 23階層目までの神々の中には、上記の五つと同じような役割をする神もいらっしやいますが、「五柱の神」という特定の神は存在しません。

例2) 国万造主大神・伊都能売神（五男三女）・大黒様

- 25 地上創造において、中心的役割を担った四十八の神の【体の面】の神々をまとめた人間が作った総称なので、国万造主という特定の神は存在しません。

神のお名前と同様に、神界の呼び名も人間が認識する為に勝手に作った呼称なので、神の世界では人間界とは別の本来の呼び名があります。

30

平成21年5月17日正午をもって、龍神が全員国津神に神上がりし、龍神界が消滅したことによって、国津神界と現津神界の隔たりが無くなり、国津神と現津神が自由に交流できるようになりました。

- 35 これまでは、それぞれの代で成長できる最大の大きさが決まっていたましたが、これからは神界の階層の区切りを越えて、精進次第で幾らでも大きく成長することができるようになります。

また、独身であった現津神の子の代が、自由恋愛で結婚が許され、男2人、女2人の計4人の子供を産むことができるようになりました。

- 40 (※国津神と現津神の親の代は、結婚相手は決められていて、100名の子供を産むことが義務付けられていました。)

現津神の孫の代、現津神の曾孫の代が許されて、西暦2012年12月16日に、一つの階層ができ（神人融合界）、御神霊と人間の魂が交流できるようになりました。

そのため、人間の魂が神の世界に昇華することがそれ以前に比べて容易になり、神上がりが許されるようになります。

- 45 これにより、“**神人合一**”が完成するのです。